

日々想ひ

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

酒の席も、公の場と心得よ

私の人生を変えたひと言

笠間 陸



崎重盛 発行所：PHP 研究所)です。

私が30歳を過ぎて、脳神経外科医としてバリバリ仕事していた頃の思い出です。非常にテンションの高い時期が続き、飲み会などでは、例えば主任教授が論戦相手でもズバズバ意見を述べていた時期がありました。

そんな飲み会の翌朝、恩師である神野哲夫教授(当時)から、私に酒を飲んで暴れたことあると理由により、昇進見送りと衆議が一決

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。

「笠間、葉かけたとき、その場の一人が発言した。『一度の過ちくらいで見捨てられず、人物も育ちます。』」

「『だいたいにおいて酒んな一文が書いてあるかの飲みようで、人物人柄ら』と言つて言われた言がわかるものだ。酒の席葉が、冒頭のひと言です。公の場と心得よ』葉 仕事のスピードでは定隠(はがくれ) 著者：松 評のあつた私は、その日永義弘 発行：教育社) のうちに書店に行つて葉の90頁に記載されてい隠を讀破しました。この一文です。